

[課程一 2]

審査の結果の要旨

氏名 高橋（松本）エミリールイズ明子

本研究は、フィリピンにおいて最もマラリアが流行しているパラワン州において、元マラリア患者の再感染数を減少させる戦略を提案するために2つの研究を実施した。研究1においては、マラリア顕微鏡検査技師の感染予防啓発活動の関連因子を明らかにすることを目的とし、研究2においては、元マラリア患者の感染予防行動に繋がる関連因子を明らかにすることを目的として研究を実施し、下記の結果を得ている。

研究1

1. マラリア顕微鏡検査技師の能力が高いほど、活発に感染予防啓発活動を実施していた。
2. 顕微鏡検査技師の2つの能力、サービスの質と顕微鏡検査の技能の強化が、顕微鏡検査技師による感染予防啓発活動の強化に繋がる可能性が示唆された。

研究2

3. 元マラリア患者は全て自宅においては蚊帳の中で就寝していた。しかし、農耕や狩猟採集のために森で就寝する者が38%おり、野外滞在時の蚊帳の使用率は低かった。
4. 顕微鏡検査技師による感染予防啓発活動は、元マラリア患者のマラリアに関する知識の主な情報源であった。
5. 元マラリア患者のマラリアに関する知識のうち、特に感染経路に関する知識が高いことが、高い感染予防行動と関連していた。
6. 多数派民族に比べ、山岳少数民族は感染予防行動が乏しいことが示唆された。また、多数派民族に比べ、少数民族における感染経路の知識が低かった。
7. 熱帯雨林に住む山岳少数民族のマラリア感染リスクは高いことから、少数民族が正しい感染経路に関する知識を持つことが、対策において特に重要であると考えられた。

以上の結果から、筆者は、顕微鏡検査技師の能力、すなわち、サービスの質と顕微鏡検査の技能を高めることが、感染予防啓発活動の強化に繋がる可能性を示した。また、顕微鏡検査技師による患者の感染予防啓発活動が、元マラリア患者の感染予防行動を強化している可能性や、重点的に対策を実施すべきハイリスク集団を提示した。さらに、これらの研究成果から、元マラリア患者の再感染数減少に向けた具体的な戦略を提案している。

以上、本論文は、フィリピン・パラワン州において、マラリア顕微鏡検査技師の感染予防啓発活動の関連因子、ならびに元マラリア患者の感染予防行動に繋がる関連因子を明らかにし、これらの結果に基づいて、元マラリア患者のマラリア再感染数の減少に向けた、シンプルかつ低予算で実施できる戦略を提示した。本研究は、マラリア感染のリスクが高く、かつ医療保健資源の限られている地域におけるマラリア対策に重要な貢献をなすものであり、学位の授与に値するものと考えられる。